

2025 年 競技者必携主要改訂事項一覧表

頁	行	現 行	改 訂 案	理 由
10	3	<p>1. 12 秒及び 20 秒ルール</p> <p>投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内に、走者がいる場合には 20 秒以内に投球しなければならない。</p> <p><u>違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が 2 度繰り返したら、3 度目からはその都度ボールを宣告する。</u></p> <p>なお、塁に牽制球を送球したときは、20 秒の計時をリセットする。</p>	<p>1. 12 秒及び 20 秒ルール</p> <p>投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には 12 秒以内、走者がいる場合には 20 秒以内に投球動作を開始しなければならない。</p> <p><u>違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。</u></p> <p>なお、塁に牽制球を送球したときは、20 秒の計測をリセットする。</p>	<p>ルールが周知されてきたことから 20 秒ルールの警告を 2 回まで認める必要がないため。</p>
13		<p>新規掲載</p>	<p>【マナーを守った節度ある応援について】</p> <p>マナーを守った節度ある応援については、チーム代表者の責任において統制をお願いする。応援は自チーム全体を励ますのがマナーであることに留意し、対戦相手チームの投手や選手にことさらプレッシャーをかけるような応援は慎む。</p> <p>また、懸命なプレイや素晴らしいプレイには、自チーム、相手チームに関係なく、大きな称賛を送る。応援や演奏が開始できるのは「プレイ」以降であり、鳴り物を使っての応援は自チームの攻撃時のみとする。応援や演奏の開始は各イニングの先頭打者がアナウンスされてから、もしくは「プレイ」が宣告されてからとし、3 アウトになった時点で応援や演奏をやめる。</p> <p>① 試合前のシートノック時やスターティングメンバーのアナウンス時には、太鼓の使用や声援を控える（拍手は可）。</p> <p>② イニング間は一切の応援をやめ、守備側は座ったまま、拍手のみで応援する。試合が中断（球審の場内放送や選手のケガなど）した場合、応援や演奏は直ちに中止する。</p> <p>③ 試合途中のグラウンド整備中は、応援や演奏を中止して水分補給や休息に充てる。</p> <p>※ なお、鳴り物の使用を制限している球場では使用できない。</p>	<p>全ての大会において、応援のマナーアップを図るため。</p>

2025 年 競技者必携主要改訂事項一覧表（案）

33	最下段	4 ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合は <u>ベンチの入れ替えをしないことがある。</u>	4 ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合は <u>ベンチの入れ替えは行わない。</u>	現状の大会運営に合わせるため。
36	3	14 打者が頭部にヒット・パイ・ピッチを受けたときには、 <u>球審は攻撃側監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。</u>	14 打者が頭部にヒット・パイ・ピッチを受けたときには、 <u>選手</u> の安全確保を第一に、その程度を問わず球審は臨時代走の処置を行わなければならない。	選手の安全確保を第一に考慮するため。
57	5	8 相手選手を威嚇する行為、プレイを利用して相手選手を欺く行為を禁止する。	8 相手選手を威嚇する行為を禁止する。 9 <u>プレイを利用して相手選手を欺く行為（アンフェアプレイ）を禁止する。現実に欺く行為が行われた場合、審判員の判断で進塁を認めるかプレイを無効にする。</u>	ピックオフプレイやトリックプレイなどアンフェアなプレイを画策させないため。
63	15	8 バットは改造、加工したものは使用できない。ただし、後付けのフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用は認める。	8 バットは改造、加工したものは使用できない。ただし、後付けのフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用は認める。 9 <u>学童部バットの使用制限</u> <u>安全面を考慮し、学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属／カーボン）バットについては、使用制限は行わない。</u> <u>注）少年用バットの使用制限は行わない。</u> 10 <u>メディシンボール等（アップ、トレーニングのための補助具）は打順表の提出までは使用することができる。</u>	9 は2023年支部宛て文書通知済み 10 は新規掲載、実際に投球や送球トレーニングアイテム等、アップ時に用いる補助具が多数使用されているため。

【2026年競技者必携改訂に向けての2025年中の検討事項】

2024年競技者必携の内、224P「審判員の構え、判定と宣告、ジェスチャー」から247Pまでを削除することを検討したい。理由としては、全軟連の審判員の手法・技法・動きなどは、BFJが発刊している「都道府県審判指導員マニュアル」や「審判メカニクスハンドブック」、「野球審判員マニュアル」他に準じており、競技者必携に掲載している意味がなくなったためである。